

手と手をつなぐ

ととととクラブ代表 金 宣子

公民館の会議室には木曜日の午前と土曜日の午後、熱心に日本語の学習に取り組む外国の学習者とボランティアが集います。最近ではベトナムのメンバーが一番多く、中国、フィリピン、韓国、モンゴル、ロシア、ペルー、インドの皆さん。メンバーは日本人と結婚した女性、中国からの帰国者、技能実習生や技術者とその家族、近隣の大学の教師や留学生、インド料理店のシェフと様々です。

日本語の読み書き教室「ととととクラブ」が発足したのは今から20年ほど前。日本語がわからなくて困っている人達の学習支援と、日頃少数者としてストレスの多い生活を送っている外国の人達にほっとできる場所を提供したいという思いが出発点でした。

桜の頃にはバーベキュー、夏休みには料理教室、紅葉の頃には遠足、フェスタにんげんバンザイの模擬店では各国の料

理の数々を販売してきました。今年はベトナムの春巻きやビーフンを予定しています。メンバーが楽しみにしているのが市内の中学校との国際交流会。この日はメンバーが日本語で自分の国の紹介をしたり、質問を受けたり、ゲームをしたりと子供達と童心に返って過ごします。バーベキューや忘年会では「卒業生」が駆けつけてくれて、お得意の料理を作ってくれます。これがまた絶品で、ボランティアの家庭料理になった品々も多いと聞きます。一緒にご飯を作って食べる、これが親くなる近道だとつくづく感じています。メンバーは家族連れで参加して「ととととキッズ」はいつも賑やかです。

日本人と結婚した女性達は子供が学校などから持ち帰るお便りや書類に悩まされています。特に漢字圏ではない場合は漢字が高いハードルになっていて、やさしい日本語に直しながら説明するのですが、ボランティアの力量が問われます。身ぶり手ぶりも交えチャラシや最近はいPadも用いながら、ここはボランティアの腕の見せどころです。

言葉がわからない時は大海に漂う小舟のように不安だったと話していた中

国の女性が「ととととクラブは実家です」と。子育て真っ最中のベトナムの女性が帰り際に見せてくれる笑顔。帰国してしばらくしてからまた訪ねて来てくれるモンゴルやインドの人たち。このような出合いがボランティアには励みになります。現在ボランティアは熟年男性が頑張ってくれていて、皆さんホスピタリティ溢れるナイスガイ達です。

1400年の歴史のある狭山池は朝鮮半島からもたらされた技術が採用され、西には陶器山がありその昔大陸との交流がさかんだった狭山。縁があつてこの地に住む外国の人達と楽しくおいしい時間を共有する。ボランティア冥利につぎる日々です。

